

いいね!



周囲の理解や制度を活用してイクメンな自分を「選び取る」。

現在の状況について

今年の二月に「この世で一番かわいい娘」が生まれてからは、妻と娘の居る関西に毎週末通い、お風呂やミルクなどできるだけのことをしています。

それでも研究のペースが落ちていないのは、上司や同僚の配慮と実家のサポートのおかげです。妻が同領域の研究者なので、お互い職業生活を理解しあえるのも強みですね。

育児経験で変化したこと

一番のメリットは「子どものために頑張ろう」と仕事に張りがでること。経済学者の視点としては、育児で失う時間は研究に対するコストとして計上しなければいけません。子育ての面白さに比べればたいしたことじゃない。今この瞬間に得られることの方が大きいと思っています。労務管理を理解する意味でも育児の取得を検討していますが、休業期間と収入のバラ

ンスを考えないといけませんね。

学生に向けて

自分の身を守るワークライフ・バランスや社会保障について、目ざとくなってください。理系の学生は、社会制度を学ぶ機会が少ないと思うのでなおさらです。

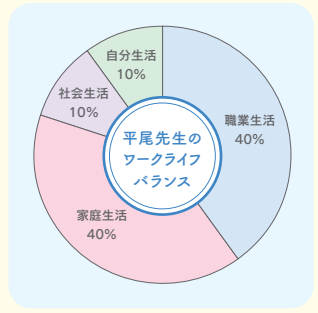
また、どんな進路でも大学を出る時が人生で一番重要な選択になると思います。慎重かつ大胆に「選び取る力」を付けてください。ただし結婚は勢いも大事です。僕は積極的に選択しました(笑)。

教育・学生支援機構 学生支援センター 講師

平尾 智隆 先生



ワーク・ライフ・バランスの割合 +++++



♡ 妻からのひとこと

「ふたりで子育てをしよう」と言われる通り、一緒に楽しく育児をしています。仕事が忙しいなか、頑張って帰ってきてくれるととても子煩悩なお父さんです。